

2021 年 6 月 7 日

住化積水フィルム株式会社の株式譲渡について

株式会社 INCJ（本社：東京都港区、代表取締役社長：勝又幹英、以下「INCJ」）は、同社が保有する住化積水フィルム株式会社（本社：東京都台東区 代表取締役 社長執行役員：杉浦一則）の株式の全部を渡辺パイプ株式会社（東京都中央区 代表取締役社長：渡辺 元）と住友化学株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長 社長執行役員：岩田 圭一）に譲渡することを決定し、このほど譲渡が完了したのでお知らせします。

住化積水フィルム株式会社について

事業開始 : 2016 年 7 月（旧社名：住化積水フィルムホールディングス株式会社）
※2018 年 4 月に住化積水フィルムホールディングス株式会社、サーモ株式会社、東包株式会社（サーモ完全子会社）、積水フィルム株式会社、積水フィルム九州化工株式会社（積水フィルム完全子会社）を経営統合し、住化積水フィルム株式会社として事業開始

所在地 : 東京都台東区

代表者 : 代表取締役 社長執行役員 杉浦一則

事業内容 : ポリオレフィンフィルムおよび関連製品の開発・製造・販売

URL : <https://www.ss-film.co.jp/>

渡辺パイプ株式会社について

設立 : 1957 年 4 月 15 日

所在地 : 東京都中央区

代表者 : 代表取締役社長 渡辺 元

事業内容 : 建設用資材の販売、農業用資材の加工・販売等

URL : <https://www.sedia-system.co.jp/>

住友化学株式会社について

設立 : 1925 年 6 月 1 日

所在地 : 東京都中央区

代表者 : 代表取締役社長 社長執行役員 岩田 圭一

事業内容 : 石油化学、エネルギー・機能材料、情報電子化学、健康・農業関連事業、医薬品事業、その他

URL : <https://www.sumitomo-chem.co.jp/>

株式会社 INCJ について

株式会社 INCJ は、2018 年 9 月、既存の官民ファンドである株式会社産業革新機構から新設分割する形で発足しました。産業革新機構は、2009 年 7 月、産業や組織の壁を越えて、オープンイノベーションにより次世代の国富を担う産業を育成・創出することを目的に設立されましたが、根拠法である産業競争力強化法の改正に伴い、同機構は株式会社産業革新投資機構に商号変更し、新たな活動を開始しました。株式会社 INCJ は、産業革新機構の事業を引き継ぐ形で、既投資先の Value up 活動や追加投資、マイルストーン投資、EXIT に向けた活動を主要業務として、2025 年 3 月末まで投資活動を行っていきます。

URL : <http://www.incj.co.jp/>

【別紙】

1. 対象会社

- ・ 事業者名：住化積水フィルム株式会社
- ・ 事業開始：2016 年 7 月（旧社名：住化積水フィルムホールディングス株式会社）
※2018 年 4 月に住化積水フィルムホールディングス株式会社、サーモ株式会社、
東包株式会社、積水フィルム株式会社、積水フィルム九州化工株式会社を経営統合し、
住化積水フィルム株式会社として事業開始
- ・ 所在地：東京都台東区
- ・ 代表者：代表取締役 社長執行役員 杉浦一則
- ・ 事業内容：ポリオレフィンフィルムおよび関連製品の開発・製造・販売

2. 支援決定内容

- ・ 支援決定公表日：2016 年 3 月
- ・ 支援決定金額：16.5 億円（上限）
- ・ 実投資額：16.5 億円
「住友化学、積水化学工業、産業革新機構によるポリオレフィンフィルム事業の経営統合について」
<https://www.incj.co.jp/newsroom/assets/1457587961.01.pdf>

3. 経緯

(1) 出資の経緯

ポリオレフィンフィルム業界は、国内の安定需要に支えられつつ、顧客からの高い要求水準に応えながら発展してきたが、国内市場の成長が頭打ちになる中、多くのプレイヤーによる競争激化や供給過多が懸念されていた。こうした環境に関する共通認識の下、住友化学株式会社（以下「住友化学」）と積水化学工業株式会社（以下「積水化学」）の両社は、INCJ との協議を通じて、事業の競争力維持・強化を目的に、ポリオレフィンフィルム事業を行うそれぞれの子会社であるサーモ株式会社（以下「サーモ」）と積水フィルム株式会社（以下「積水フィルム」）の経営統合に合意した。

住友化学、積水化学、INCJ の 3 社は、2016 年 7 月に、サーモと積水フィルムの持株会社として住化積水フィルムホールディングス株式会社（以下「住化積水フィルムホールディングス」）を設立し、INCJ は、競争力のある国内フィルムメーカーの創出を企図し、新会社の成長資金として、16.5 億円を出資した。

(2) 事業の進捗

2016 年 7 月にホールディングス体制での経営が計画通りスタートし、その後、住化積水フィルムホールディングス、サーモ、東包（サーモ完全子会社）、積水フィルム、積水フィルム九州化工（積水フィルム完全子会社）の 5 社は、経営統合によるシナジーの早期最大化を図るため、2018 年 4 月に合併し、住化積水フィルム株式会社として新たにスタートした。

新会社は、サーモと積水フィルムがお互いに有する強み・機能を統合・活用しつつ、差別化製

品と利益確保できる汎用製品の両輪で、規模拡大と収益改善に取り組んできた。また、成長資金を活用した投資を積極的に行い、競争力のある農業用ポリオレフィン系特殊フィルム製品の開発・製造に着手するなど、幅広い分野で高付加価値製品を提供し、競争力の強化に取り組んでいる。

(3) Exit の経緯・内容

INCJ は、初回投資から 4 年を経て、住化積水フィルムにとって事業シナジーのある候補先への譲渡を中心に Exit を検討していたところ、共同投資家である住友化学並びに渡辺パイプ株式会社（以下「渡辺パイプ」）から、住化積水フィルムにおける INCJ の持分の譲受について申し出を受けた。

渡辺パイプは、建設用資材の販売に加えて、農業用資材の販売を行っており、農業用フィルムの加工・販売を行う会社も保有していることから、住化積水フィルムの事業との販売・生産面でのシナジー効果が見込まれる。また、渡辺パイプの資本参画により、住化積水フィルムは、農業用フィルムの分野で、市場シェアを大きく伸ばすことも期待される。

INCJ は、住化積水フィルムの事業の進展だけでなく、農業用フィルム分野における業界再編に貢献するものと判断し、今回、INCJ が保有する株式の全部を渡辺パイプと住友化学に譲渡することとした

4. 主務大臣（経済産業大臣）意見

意見なし

<本発表資料に関するお問い合わせ先>

株式会社 産業革新投資機構 経営企画室 広報 入江、野々宮（報道関係）

東京都港区虎ノ門 1-3-1 東京虎ノ門グローバルスクエア

電 話：03- 5532-7086

URL：<https://www.j-ic.co.jp/jp/>

<https://www.incj.co.jp/>